



至急
親展

受信一四〇九

一二四了〇七二五

電〇五五〇六作區

東

通

暗號軍機

機密第一一〇九二七番電

發 第四南遣艦隊參謀長

宛 大海參一部長・軍務局長

舊第二十五特別根據地隊本隊在「ニユ一ギネア」部隊ハ第四南遣艦隊機密第二九一〇〇四番電ヲ通ニ編入發令方御取計相成度。

通五九六八・呂二A(一八三六七五)二一通

海軍

第十信課



受信始一五三四〇
電〇五五二三五
一六一〇

軍機

發 南西方面艦隊參謀副長

宛 GKF參謀長

「マニラ」及マニラ周邊地區陸軍ノ狀況左ノ通

(山本參謀振武集團トノ連絡ニ依リ)

一、方面軍ヨリ勦兵團(五個大隊)ヲ「カバニアン」ニ移動下令セラレタ

ル爲「アンチボロ」方面兵力皆無トナリテ同地防禦ノ爲左ノ兵力移動

豫定ノトコロ海軍側ノ意向承知致度トノコトナリ取敢ス山本參謀ヨリ

海軍兵力ノ移動ハ極メテ困難ナルベシト申入レアリ

(イ)海軍「ラモン」派遣隊一同地ニ監視程度ノ兵力ヲ殘ス但シ海軍側撤

通五九四七、五九八〇 呂三A(八八八四K)三一通

局長	三	通第	五分遣隊	聯合艦隊	口	J	C	〇	〇	D
海軍參謀長	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
部	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J

機密第一一一〇五一番電

四分ノ一、二

3/4 2/4 2/2

作機

退不能ノ場合ハ陸軍側一個中隊（約一〇〇名基幹）ヲ残ス

(四)レカスピイ方面ハ海軍兵力及少佐ヲ長トスル一箇大隊ヲ殘シ右兵

力ハ三五營ノ指揮下ニ入り他ハ全部移動（海軍兵力ヲ移動スル場

合ハ陸軍ハ全力移動）

(五)ラダナ湖以南杉兵團ノ一部及雲龍隊基地員（七〇〇隻分ノ基地員ト

ナル處實動二〇〇隻ニ付余分アリ）若干

（電信課註）本電四分ノ三、四未着



一一二 受信 〇〇六五〇五〇 了 〇七四五 電 〇〇五五五三一 作 〇

第一 第二 遣 支 艦 隊 P

親 急 展

大海參一部・支那方面艦隊

機密第一一一一七三七番電 二分ノ一、二

機 密 印

比島方面ノ情勢ニ鑑ミ第二三軍ハ急遽香港汕頭間要地域ヲ占領確保

邀撃配備ヲ強化スルコトニ P P P ト協同作戰ヲ實施ス

第一次十四日發動惠州方面ヲ攻略バイアス灣方面ニ進出ス約一箇大

隊香港ヨリ海上機動シバイアス灣澳頭ニ揚陸相次ギ第二次二十日發

動約二個大隊香港ヨリ海上機動シ紅海灣汕尾由利島特埋立陸豐黃島初

島沿岸ヲ占據セリ

尙汕頭陸軍部隊ハ之ニ策應西進連絡兩回共ニ海軍ハ船團護衛及揚陸

援護ヲ行フ。

東通註 P 再送要求中

通六二七〇・六二五七 呂三A(七四六五KG)上陸

濟

親展
緊急

受信一七六〇六 譯了一八〇五 電〇六〇三九補人◎

◎ 大海參一部 ● 人事局 ● 聯合艦隊口 ● 南西方面艦隊口

◎ 第三一特根 ▶

暗號軍機

機密第一一二〇〇八番電

一、戦局急迫已ニマニラモ所在海軍軍人軍屬ノ全部ヲ擧ゲテ本隊ノ
 指揮下ニ入ラレタル今日第三南遣艦隊幕僚モ残留者ハ全部本月
 中專務トスル様然ルベク考慮アリタシ

二、管隊今朝復雜老編成トナリタルトコロ主席參謀ハ「コ島」指
 揮官トシテ派遣シアリ除務遂行上支障アルニ付至急補充ハ「コ島」
 指揮官ヲ別ニ配員セラレバ最モ好都合ナリ」方取計ハレ度。

通六四八八 呂二A(一二八一〇K)三一通

海軍

第十個隊

親展

作

暗号機

受信二二三〇三
譯始二三〇〇三

譯了二三一五

電〇五五〇八

航作
本概〇

香取航空基地

第六艦隊F・第二七航戦P

大海參一部・第三航空艦隊F
聯合艦隊F・第四航空艦隊F

機密第一一二〇一九番電

發一KFGB指揮官

香取航空基地機密第一〇二〇五一番電ニ依ルG戰果偵察機ノ行動ヲ一日
宛線下ク。

通六一六〇 呂三A (木空 八キ (福田)



親展

作戰特別緊急

一、一二
受信一六〇〇 譯始一六三〇〇 譯了一七二〇 電〇五七七二
參作概本〇

三十一通第五分遣隊

大海參一部・聯合艦隊口

暗號軍機

機密第一一二三〇五番電

發 G K F 參謀副長

宛 G K F 參謀長

第三十一通信隊機密第一一〇五一番電第二項(1) (四) 四航軍兵力約五

〇〇〇名 七航軍飛行場地區隊兵力約一〇〇〇名 (確認) 二改

〔電信課註、右訂正箇所電未着〕

通六四七一 呂二A (八八八四K) 三一放



一三 受信 一七四〇 了 一八四五 電〇五七五三
航作 概 本〇

親 展 誌

二七航空戦隊、聯合艦隊口

大海参一部、聯合艦隊口、四艦隊口、三航空艦隊口



機密第一二一五〇四番電

發 第一機動基航空指揮官

天候不良ノ爲香取航空基地機密第一〇二〇五一番電ニ依ル下ニ一彩雲

ノ行動ヲ更ニ一日繰下グ(十三日一〇〇〇香取發)

一東通註 本電開始時不明ノ爲遅延

通六五一六 呂三A(B) 木空基機

一 一 一 二 受信二〇〇四 譯了二一三〇 電〇七八八九 特作
譯始二一一五
作 戰 緊 急 親 展

親展

東 通・南西方面艦隊P
第二艦隊P

暗號

機密第一二一五一番電 五分六

發 第五艦隊長官
宛 G E 長官 軍司令部
現内地所在第二艦隊兵力トニ Y B トヲ分在セシメルハ陸上ヨリ分

ノ爲ニ我損害ヲ自ラ招クニ外ナラズニ Y B ヲ南方ニ控置ノ儘トスル
ハ八〇〇〇ノ行動ノ關係上作戰行動ノ事實上至難ナリ戰艦以下ノ精

銳艦ヲ有セズ敵機ノ敵機ト刺刺セシメ或ハ無爲ニシテ離島ノ犠牲ト

爲スハ餘リ貴重ナリ。

（海軍通註本電再送ノ爲遲延）

通六五九九 呂二Aケ三（五四八〇K）一〇通 （機 澤）



一二二 受 信 始 二二三六 了 二三四〇 〇五九七三 航作 概 本〇

四 艦 隊 戸

聯合艦隊戸 三航空艦隊戸

機密第一二一八五二番電

一KFGB指揮官

機密第一〇〇八五二番電返

貴基地彩雲整備能力ニ鑑ミ同一機ヲ以テ引續キ偵察ノ實施ハ困難ト認
メラルルニ付更ニ次期偵察兵力トシテ彩雲雷電ヲ派遣ノ豫定ニ付現派
遣機ハ戰果偵察後至急香取空基地ニ歸投ノコトニ取計ハレ度。

通六六六七 呂三A B 木空基地

一 一三 受信 一〇〇三〇五 了 一二五〇 〇六〇八一 作標〇
航本

作戰緊急
展

香 取 空 基 地



大海參一部・聯合艦隊口・第一機動基地航空部
第三航空艦隊口・四艦隊口・二七航隊

機密第一

機密第一 一三〇七二八 香電二分ノ一

一 K F G B 電令作一二號

一、機密の命令作第一〇三號ニ依ル一 K F G B ノ各方面作戦任務ヲ
解カル但機會アル毎ニ派遣中形變ニ依ル偵察ハ特令アル迄之ヲ續
行スベシ。

【註本電誤字極メテ多シ】

【電信課註 本電二分ノ二未着】

通 六八五七 口二△ヲ十八(日)木更津 セン波(鈴三)



一八一三
作戰緊急

受信一五三〇
開始一二一〇

譯了二四三〇
電〇六二〇五

航作
本〇

◎ 香取航空基地

◎ 一機動基地航空部隊

◎ 大海參一部・聯合艦隊口・四艦隊口・二七航空戰隊・第三航空艦隊口

暗號軍機

機密第一三〇二八番電

二分ノ二

二一KFG Bニ對シテハ一月二十五日ヲ目途トシ對機動部隊作戰ニ對
スル急速戦力ノ増強ニ努ムルト供ニ在關東一KFG Bハ一月二十五
日以降當部隊命令作第三號ニ依リ九州方面第二配備基地ニ展開スベ
シ但シ在關東七二一部隊ノ九州方面展開基地ニ關シテハ後令ス。

（電信課註 本電二分ノ一既配布）

通六九〇二 呂二A（B）木空



一四三 受信開始 〇〇〇五

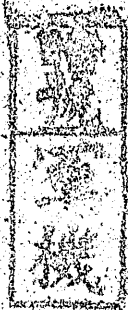
了 〇二二〇 電 〇六四八三

参作 〇

親展

第一聯合基地航空部隊戦闘機報告信鑑所

第一聯合基地航空部隊



機密第一三一四三〇番電

クレーク 情況報告 (十二日)

一 敵襲ナシ

二 陸軍ハ十二日以後當飛行場ヨリ中攻隊ニ依リ四FA、四FD司令部
カガヤン溪谷ニ移動完了

三 青木集團司令部、四FA參謀副長、カガヤン溪谷移動陸軍防衛指揮
官、灣兵團長ニ指定セラル

四 艦兵團ハ(サンシゲル) (アラヤツト東方)ニアリ進出ノ意志ナキ
モノノ如シ、又進出不可能ト認ム

通七二〇八 呂二A (四五五〇三五〇) 高通放 再出 (太 出)

五四日Aの十二日以後搭乗員半隊ヲカカヤンニ移動
六各戦區先頭漸ク戦區ニ到着スルニ付ノ入陣地設定ニ着手セン
トス

七米一日一人三〇〇瓦トシテ三ヶ月、鹽二ヶ月ハ蒐集困難トナリツ
ツアリ。

一一四 受 信 一三三〇 了 一六四五

電電電電
〇〇〇〇
六六六六
六六六一
八四一五
五〇六五

作 概 〇

通

大海參一部・聯合艦隊口・南東方面艦隊口
海軍省

機密第一三一七〇一番電

四分ノ一三三四

發 第八艦隊參謀長

外南洋部隊 QBMニ於ケル現狀概要 (十一月 十二月)

一、QBOノ敵ノ反抗進撃ハ不活潑來航モ激減附近沿岸ニ舟艇ニ依ル上
陸作戦ヲ行ヒシモ何レモ訓練的ノモノナリ

RXARR方面ハ敵第五列策動屢土民群我農園ヲ襲撃被害相當數アリ
シモ其ノ都府掃蕩戰機シアリ無雷艇ハQCCヲ基地トシ夜間時々

通七四一〇・七四一六 呂三アラ六(八九九五)四通
通七四六〇・七四四七

QDA・RXA附近ニ二乃至四隻出現陸上ヲ砲撃スルニ過ギズ
二海軍部隊所在地附近敵機銃爆撃機數十一月七五〇機 十二月五三〇
機撃墜機數三機主トシテ居住區農園屬棟ヲ目標トシ夜間空襲ハ十月
初旬以降全然ナシ

三現在員概數RW〇・RXA附近約八二〇〇名（RX〇附近四〇五〇
名）ニシテ一月以降一人日額甘藷一二〇〇瓦ヲ主食トシ豆瓜類タビ
オカ椰子實等ニ依リ計約一七〇〇カロリノ給食ヲナシ又陸稻ノ試
作成績良好ニ付津次普及ノ豫定

四戰病死者（マラリア營養失調急性腸炎等）十一月五九〇名 十二月
五三一名 昨年中ノ總計七千名ニ達セリ（外ニ戰死者六六〇）昨年
後半期ハ營養失調ニ依ル病死者極メテ大ナリシモ幾千ノ重キ犠牲ト
血ト汗ノ結晶ニ依ル自活態勢概成スルニ伴ヒ漸次減少セリ現在受診
患者平均三五％ニシテマラリア劑服錠豫防施藥ハ止メ治療ニモ
原木 服用ヲ斷行シツツアルモ之ガ効果顯著ナラズ食肉類不足

8-611

戦病死者尙相當數ヲ算ス時ニマラリアニ依ルモノ漸増シツツアリ陸軍モ同様ニシテ昨年中ノ戦病死者一〇五〇〇名(目下尙毎月千名以上)戦死者約四三〇〇名

マラリア劑現在量小形治療ノミ(節減喰ヒ延バシテ)トシテ海軍七月頃迄陸軍五月頃迄ト推算ス

五 R R トノ連絡ハ N T F 水信ニテ二ヶ月ニ一回一機程度 R X C 八七警

トハ毎月一回程度ニテ書類連絡 R W O 附近離島トハ大發ヲ運航セシム

六 通信配備ハ極力縮小節約電球電報用紙等六月迄持續シ得ベク又設營

隊員ハ今迄ハ小銃少ナク大部分竹槍除ナリシモ戦病死者多數生ゼシ

爲全員小銃武装スルニ至レリ

七 目下軍司令部ニテ自活態勢ノ確立強化並ニ戦病死者ノ防止ニ懸命ノ

努力ヲ拂ヒ且藥品類消耗シタルヲ以テ創食工夫ヲ凝シ現地生産自給

ニ努メ體力モ漸次向上全員士氣極メテ旺盛自力更生戰意ニ燃エ戦力

向上シツツアリ

一 東通社 本電譯字概メテ多シ

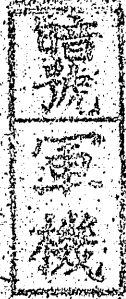
作戰緊急

一 一四 譯 信 一五三〇〇 譯 了 一六四五 電 〇六七五五 作 編 本 〇

南西方面陸隊・第一聯合基地航空部隊

クラーク第一聯合基地航空部隊 戰鬥司令部

機密第一四〇三四五番電



宛 參謀長

憲兵團塚田陸軍少將「クラーク」着所在陸軍部隊ヲ統率スルコトトナレ
リ憲兵團ハ複廓陣地設定シ長期持久ノ着意ナリ遮ニ無ニ切込ニ攻撃シ華
人シキ戰鬥ヲ企圖シアリ海軍現方針ハ十四方面軍指導ノ下第一航空艦隊
長官ノ企圖セラレタル處ニシテ必勝ノ策此處ニ生ズベク徒ラニ平地ヲ死
守シ早期玉碎ニ陥ルノ虞レ多キニ作戰方針ニ同意シ難シ
尙武兵團ノ意嚮ヲ問フト共ニ陸海軍指揮關係ハ意見一致ノ時機迄協力關
係トスルヲ可ト認ム。

通七五五六

呂二A (一三五二〇KC) 高雄



作戰緊急

一五四 受信 〇二三三五 譯丁 〇三二〇 電 〇六八八二〇・〇〇六八八一 航 〇六八八三 航 〇

鹿屋 航 空 石川 基地



一 K F G B九州方面豫定配備基地ハ調査打合せノ結果左ノ通

ハ)七六二空ハ首都隊要望通

ハ)七三空

(1)都城、土質軟弱ニシテ小型機以外使用不適

(2)串良、簡易 舗 裝ニシテ現在小型機ノ使用ニ於テスラ破損シアリ

大型機ノ連續使用ハ此處ニ於ケル前例ニ鑑ミ適當ナラズ
作戰緊急用トシテハ考慮ノ餘地アリ

通 七六六二七六六五
七六六二七六六五
七六六二七六六五
呂三A) B)佐通

(3) 第二國分、滑走路目下造成中ニシテ飛行機置場無ク燃料補給
蓄積ニ極メテ難色アルモ伏勢ノミノ基地トシテハ
適

(4) 出水、練習機約六〇機ヲ他へ轉出セシムレバ陸上攻撃機（銀
河）一隊收容可能

(5) 鹿兒島、S三〇六全面的の使用可能

(6) 志布志、未完成

二、右ノ現状ニ鑑ミ甲作戦ニ於テ九州方面基地ニテ櫻花機整備ノ状態
ニテ雨天後ト雖モ發進可能ナルハ鹿屋、宮崎ノ外無キヲ以テ月末
ヲ期シ櫻花機、鹿屋三〇、宮崎約二〇ノ格納所ヲ造成スルコト
ニ協議済

三、南西諸島ハ月末ヲ期シ北飛行場ニ櫻花機格納所ヲ、北中飛行
場ニ陸攻及戦闘機ノ一部ニ要スル伏勢場所ヲ造成（南西諸島空司
令ト直接協議済）

四鹿屋基地、彩雲ノ有蓋竝ニB場所以上月末迄ニ完成
五中央ニ對シ申込事項

(イ) 管部隊展開ノ爲九州方面展開ニ於ケル急速築城作業ノ爲佐領指
揮下設營隊ノ全力及第二鹿屋空、申良空ノ練習生六〇〇〇名ヲ
協力セシム

(ロ) 出水海軍航空隊ヲ速ニ作戰基地トシ練習機ヲ他へ轉出セシム。

（東通註 七三空ハ七二一空ノ誤作成ト認ム）

機展

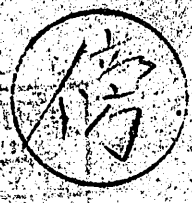
一四 受信 〇二二三〇
一五 開始 〇〇五〇
電 〇一五五
電 〇六八七九

作戰概
軍備・兵備

作戰緊急

エチアケ航空基地

三一通第五分遣隊・三一根



機密第一四一七匹〇番電

發 GKF 廣田參謀 (於バイオンボン)

宛 GKF 參謀長 GKF 參謀副長

一 小官一行十二月バイオンボン基地着

二 營基地電信機ハ市内電源 (燃料無キ爲) ナリ

三 現狀陸軍ノ言ニ依レバコ口基地ボンフワクバギオ間道路ハ土匪ヲ

討伐シ道路ハ修理セサレバ交通不能

四 生産ハ差當リ三五〇〇名^{程度}ハガバ方周邊ニ收容可能ノ見込

五 營基地缺乏品自動重燃料・鹽治療品・農器具・野菜種。住宅

通七七一五 呂二八 (四五七二五) 高放



一四 受信一九四五 譯了二一〇〇 電〇六八七八 作 概〇

緊急 消息

● 第一 潜水部 隊

● 東 海 聯合艦隊 中 聯 隊 第四艦隊 大 第三航空 艦隊 中 聯 隊

機密

機密第一四一九一五番電

宛 金剛隊

先遣部隊電令作第一二號

伊號第四八潜水艦ノ攻撃指向地區ヲ第一攻撃地區トス。

通七六五五 呂一A (五二九五K) 六F放

緊急新展



一五

信一〇五〇
譯始一四匹〇〇

譯了一五〇五

電〇七〇六一

航概〇
本

局長	航戰	四艦隊	香取	航
海軍一部	六艦隊	三航空艦隊	取	航

空基地

機密第一五〇八二三番電

發一KRGB指揮官

支作戰協力(PT偵察)T一彩電二機ノ行動豫定左ノ通

十六日一〇〇〇香取發NME着十七日〇六〇〇NME發PT着十八日

PT發PU偵察PT歸投。

通七九二七 呂三Aラ六一B 木更津空

緊急親展

急親展

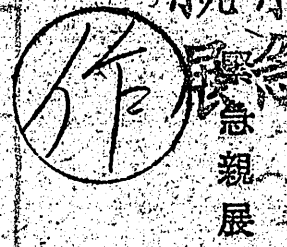
一五

開始一五二五〇七

了一五二五

電〇七一〇〇

航作機本〇



機密第一五一〇一一番電

發一RFGB指揮官

明十六日以降玄作戦協力「一彩雲ノ呼出符號ヲ左ノ通改ム

一移動用一小隊「ウイツ」二小隊「メヨム」三小隊「シキウ」四小隊

(フケキ)

二作戦用G・P・S偵察隊「カヒラ」P・O偵察隊「ノスス」

通七九九〇 呂三Aラ六（B）木空基地

通信機

發

— K F G B 指揮官

天候不良、爲香取航空基地機密第一五〇八二三番電ニ依ルテ一彩雲、行動豫定ヲ一日宛操下グ。

通八五一八、呂一A。(B)木空基地、岡村(雨谷)

機密

一六

受信開始 一〇五七

譯了 一一四〇 電〇七四八三

航作本概〇

局長						
一課長						
A						
B						
J						
G						

四艦隊P・二十七航戰

大海參一部・聯合艦隊P・六艦隊P・第三航空艦隊P

機密第一六〇九二一 番電

空基地



一六 受信二一四三 譯了〇七三〇 電〇七九二七 航作
始〇五三〇 〇 〇七九二八 本〇

親 至 急 展

通・聯合艦隊口

第十三航空艦隊口

南西方面艦隊口

機密第一六一三四八番電二分ノ六二

發 第十三航空艦隊長官

宛 次 長

通報次 官

新情勢ニ對シ當方面陸海軍共歸趨ニ迷ヘル形ナリ左ノ諸方針確定
明示セラルルコント焦眉ノ急ナリト認ム

一、南西方面艦隊長官ハ直ニ指揮ニ適スル地ニ轉移シ南支臺灣比島ノ
作戰指揮ニ専念

二、爾餘南西方面ニ新海軍最高統一指揮官ヲ設ケ所要ノ海上兵力ヲモ

通八八二二・九〇三四 ロ三△ラ六(六二三五)十通 石田(鈴三)

六 指揮官ノ作戰指揮下ニ配シ一兼任ヲ有セザル獨立司令部トス
 五 司令部等ヲ之ニ充ツ

三 南西方面ノ複廓ニ相當スヘキ兵力ノ配備中心ヲ決定シ海陸軍一貫
 セル作戰態勢ヲ確立シ諸條件ヲ考慮シ結局ヲライ・スマトラ方面
 ナ中心トスルヲ適當トスベシ此ノ場合成ルベク蒙北部隊等ヲ極力
 緊縮

四 海陸軍ヲ一貫セル作戰擔任地域竝ニ作戰指揮ヲ調整ス一陸海軍統

一指揮トセラルル場合ニモ第二項ノ海軍指揮官ハ必要ナリ

五 昭南方面所在艦船ハ著當リ本隊ノ指揮下ニ入ラシメ又九三六空ハ
 此ノ情況下ナリテハ第十三航空艦隊ニ編入セラルルヲ適當ト認ム
 六 南北輸送ノ至難ナル情勢ニ鑑ミ之ニ對スル今後ノ方針ヲ確立ス

受信 〇七三〇五
譯了 〇九四五
電 〇七九三〇

潜作
艦部

緊急

共

符



聯合艦隊口・先遣部隊口・十五潜水隊
大 海・島三三・伊四八

機密第一六一八〇八番電

發 伊三六潜水艦長

十一日〇二三〇ピーク島西方ニテ電波探信儀約二〇〇メガサイクル

ニ捕捉サレ〇五三三ヨリ爆雷攻撃ヲ受ケ離脱運動中一二四二ヤウ島

ニ衝突一部懸垂二二三〇浮上離礁十二日〇三五〇第二發進點ヨリ固

縛發進法ニテ第三回發進四基目發進前被爆劑後爆雷攻撃ヲ受ケ回天

成果判別シ得ズ 損傷輕微ナルモ發射不安ナリ

本艦十六日一八〇〇へノヤ三六針路〇度

通八八六一ロ一Aケ二(B)吳通 石田(鈴三)

一 一六 受信二二五三 譯了〇三二五 電〇七九二九 潜作艦部〇

緊 急

共

符



聯合艦隊司令部・先遣部隊司令部・十九潜水隊司令部・伊四八
P 基地(吳)

機密第一六一八一七番電二分ノ一

發 伊號第三六潜水艦長

一、ウルシ島約三〇哩以北、西流〇・五乃至一北側南流乃至東流〇・五
東西側潮流強シ

二、光芒ハ▲二一及B二二ノ東半ヨリ出ス

三、發進完備

(→) 固縛發進法皆簡注水後調壓一七ニテ發動調壓下ハケツテ給排氣
筒外シ前方稍先ニ前後側スト同時ニ離脱不安ナシ。

一、電信課註 本電二分ノ二未着

通八八五二 口一A(B)吳通 大和田(鈴 三)



緊急
親展

一七六

局長	一課長	二課長	三課長	四課長	五課長	六課長	七課長	八課長	九課長	十課長

無線機所用未通符號

三二九

作
部
〇

聯合艦隊口。十五潜水隊下。先遣部隊口。伊四七

基地 (吳)

機密第一六一八一七番電 二分ノ二

伊號第三十六潜水艦長

發進點ニ於テハ浮上必要ナリ修理シ得ザル回天ハ發進セザルヲ可ト

認メ潛望鏡使用嚴戒ヲ要ス

發進點ノ北寄り第一並ニ第二發進點ノ北寄り

第二第三發進點ノ北寄り

飛行偵察ナキ場合ニ潜水艦偵察實施セザル様指令ヲ切望ス。

電信課註 本電二分ノ一既配布。

通八八四八 呂一A (B) 吳

通八八四八 呂一A (B) 吳

一 一七 受信一三三七 譯始一四三〇 一六三〇 電〇八一三三三作概〇
航本

緊急 展開 香取空基地



第四艦隊口・二七航戦
聯合艦隊口・六艦隊口・第三航空艦隊口

機密第一七一〇四五番電

一 K P G 指揮官

香取空基地機密第一五〇八二三番電ニ依ル P U 偵察機ノ使用電波ヲ
左ニ依ル

一 進出香取 I N M E 八二九〇 N M E I P P 七二一〇

二 作戦第四艦隊所定ノ電波 (P U) 得ザレバ七八七〇

三 〇 R I N M E 經由香取歸還八二九〇

四 十八日十九日 M M E 二於テ使用電波七八七〇呼出符號一三廿一

一 二 註 二 本電問合セノ爲ニ依ル偵察ヲ實施シアルガ如ク適宜偽購通信ヲ實施ス。
通九一 二八 三 A (B) 木空基地



一八
受信始 〇〇五五〇

了 〇六三〇

電 〇八三四八
〇八八八九

救水運作
本路本概
〇

無線機

機密第一七二一二四番電 二分ノ二

發 G K F 參謀副長

宛 大海參一部 水路部長 海上護衛總司令部

一、左記地點ニ機雷ヲ敷設セリ

(イ)「コレヒドル」島北側東方「サンホセ」棧橋東方一二〇〇米

以東ノ距岸三〇〇米敷設機雷九三式五四個

(ロ)「コレヒドル」島南側中部カバレオ灣距岸四〇〇米九二式機雷

一三個

通九四五三、一〇〇六六 呂二Aラ十八 (四二七〇KG)三十一通

(H)

(ハ) 「カラバール」島南方「リンダネス」湾東北側九三式機雷二〇

個

(ニ) 「マリヌテメノ」モロ湾西南側「カラコル岬」ノ二三〇度六〇〇

米ヨリ二三〇度方向へ一二〇〇米間ノ敷設終了機雷二七個

三コロレヒド「ル北側水道閉塞」ノ命令受領後二日ニテ閉塞可能ノ見込

敷設機雷九三式七三個調定深度二・五米ノ豫定



親歴

電機

一九四〇

譯始 〇〇六二〇六

譯了 〇七〇〇

電 〇〇八八四四

電 〇〇八八四五
作 〇
機 〇
本 〇

東京通信隊 西方部隊各口
聯合艦隊口 南西方部隊口

機密第一八一三 一五番電

二分ノ二

發 第一五根據地隊司令官

通報 大海參二部長

ベナン島電探ハ從來B-I二九ニ對シ單機一〇〇糎以上ニテ確實ニ捕捉

シアリシ處本年ニ入リテヨリ編隊一回單機三回(高度何レモ約七〇〇

〇米)四機來襲ニ際シ左ノ如キ現象ヲ呈セリ

敵ノ防探手段等ニ關シ各基地ニ於ケル情況參考ノ爲通知ヲ得度

一、全周探信ニ對シ不感

二、追從探信ニ於テ二、三分間隔ニテ陽極的ニ感度アリ(陸攻ヨリモ稍

低感)

三、陸攻高度五〇〇〇米ノ最大使用速力ニ於テ成績良好ニシテ電探ニハ

異狀ナシ。
通九九三三、九九五二 呂一A(一六四四〇IC)一〇通



一 一八
受信一八五〇七
開始一八〇七
了 一九〇〇
電 〇八六一〇
潜作
艦機

聯合艦隊

第六艦隊P・第七潜戦P・第五根拠地隊

機密第一八一四二一番電

發 第四艦隊參謀長

一、伊號三七一潜水艦〇九三〇PT着

二、伊號三七一潜水艦ハ第七潜水戦隊機密第一六號二九七照會ノ次第

モアリPTNニ對シテ三月上旬迄ニ別ニ補給ノ見込アラバ當地ヨ

リ直ニNANAニ歸投セシムルヲ可ト認ム

右ノ場合伊號三七一潜水艦ニ一部搭載中ノPTN行糧食等ハ次回

便迄當地ニ保管ス。

通九七〇三 呂二A(一七六三〇七) 四通 佐田(太 山)



二〇一八

電〇九三九一 作概〇(特設)

海上護衛總口

第一護衛艦隊口

大海參一部・聯合艦隊口

機密第一八二一五四番電

宛、發 參謀長

貴機密第一七一九三二番電開聯

敵機動部隊ノ退去其ノ他ニ依ル南支那海ノ情勢ノ好轉ハ速ニ期待シ
難ク往、再好機ヲ待ツモ艦ヲ次期作戰ニ依リ南方航路ノ決定的遮斷ヲ
見ルニ至ル懸念尠カラズ、又南方油ノ遺送ハ機ヲ失セズ決行ノ要アリ、
之ガ爲決戦兵力ヲ展開シ敵機動部隊ヲ擊退スルノ要ハ痛感シアル
モ諸種ノ事情ニ因リ充當兵力及時期ニ限度アリ、又其ノ期間ハ一

呂一A

通 二二一四三
二二一四六

月二十五日頃ヨリ約二十日間ト豫想セラルル(G F 機密第一七一〇一
 四番電参照)

今ト南支那海ノ突破護衛ハ特攻隊作戦ニモ比スベク犠牲又大ナルヲ
 豫想スルモ右時期ニ投ジ成ル可ク多數ノ油槽船團ヲ北上セシメンカ
 爲ニハ昭南滞留油槽船ニ對スル護衛艦及ヒ。八七船團ヲシテ機ヲ失セ
 ズ南下セシメ置クコト肝要ト認メ G E B 機密第一四一三二五番電及
 同第一七一三五〇番電ノ通申進セシ次第ニ付右諒察ノ上處置アリ度



一二〇 受信一二四二 譯始一二〇五 譯了二二一五 電〇九四一七 作機〇

至急發展

無線艦所用共通符號



第七潜水部隊

大臣・總長・聯合艦隊口・六艦隊口・横鎮

機密第三〇〇八三一番電

第七潜水部隊電令作第五七號

「カナソ」ハ「ホシセ」N.A.A發G.F電令作第四七四號ニ據ルN.M.K
作戰輸送ヲ實施スベシ。

通一〇六九六 局二△



一二〇 受信一五四〇八
譯始一五〇〇八

譯丁一五一五 電〇九五〇三

作區
潜水隊

● 總無線艦所用共通符號

● 總大臣・聯合艦隊口

● 聯合艦隊各口・各艦隊各口・各鎮守府・各警備府・先遣部隊

機密第二〇一〇〇五番電



發 第六艦隊長官

第六艦隊作戰司令所 新官(舊潜水學校跡)ニ設置、本職將旗ヲ

同所ニ掲揚ス。

通一〇七七八 呂一A B 吳通

一三〇
受信一八〇〇五
譯了一八五〇
電〇九六〇九
作 植〇

三一通第五分遣隊

東
海。聯合艦隊

機密第二〇一〇〇九番電

二分ノ一

G K F 參謀副長

G K F 參謀長

通報 大海參一部長 一部員 (乙)

機密第一八一六三五番電 關聯

マニラ方面陸上ノ場合ニ於ケル海岸擔任作戰地境左記ノ通 (マニラ

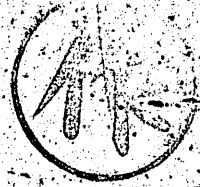
市街圖二〇〇〇分ノ一使用)

「ラグナ」湖以西「キヤビテ」南方四軒ノ地點ヲ通ズル東西線以

北。

電信課註 本電 二分ノ二未着

通一〇八一八、呂二A、タ一八 (一ニ八一〇) 三一通



親展

一三〇 受信一三五〇 譯了二三一五 電〇九四四六 作機〇

大津第一海軍護衛隊口・各鎮・各營・聯合艦隊各口・支那方面艦隊口

機密第二〇一〇五番電

聯合艦隊參謀長

二十四日ヨリ三十日迄作戰司令所ヲ鹿屋ニ移動スラルル豫定ナリ。

通一〇七四四 呂二Aケ三(B) C 枚 俣瀬(取田)

受信 一五五〇〇 譯了 八八六
電〇九五八三
航作 航
本〇

第二艦隊司令部 第三航空艦隊司令部 八〇一空 一七
七三空 三五航空戰隊司令部 一二航空戰隊司令部 高崎空

第一聯合基地航空部隊司令部 第一〇一航空戰隊司令部 横領 吳鎮
東 通 第四一驅逐隊司令部 第三潜水隊司令部 横空 佐鎮

機密 第二〇一 八番電 二分ノ一、二

通報 大海參一部長 軍務局長 航本總務部長 海上護衛司令長官 攻堅第二六一飛行隊長
〇〇電令作發四七五號

左ノ要領ニ依リ一K F G Bノ第一回綜合教練ヲ實施ス本教練指導官
一〇一司令部ニ指定ス

一實施期日 自一月二十五日 至一月三十日

通 一〇八八三三 呂一A B C D 石垣 永島 小野田

一、實施區域南九州基地群及四國南方海面

二、參加部隊甲軍第一、第二、第三、第四、第五、第六、第七、第八、第九、第十、第十一、第十二、第十三、第十四、第十五、第十六、第十七、第十八、第十九、第二十、第二十一、第二十二、第二十三、第二十四、第二十五、第二十六、第二十七、第二十八、第二十九、第三十、第三十一、第三十二、第三十三、第三十四、第三十五、第三十六、第三十七、第三十八、第三十九、第四十、第四十一、第四十二、第四十三、第四十四、第四十五、第四十六、第四十七、第四十八、第四十九、第五十、第五十一、第五十二、第五十三、第五十四、第五十五、第五十六、第五十七、第五十八、第五十九、第六十、第六十一、第六十二、第六十三、第六十四、第六十五、第六十六、第六十七、第六十八、第六十九、第七十、第七十一、第七十二、第七十三、第七十四、第七十五、第七十六、第七十七、第七十八、第七十九、第八十、第八十一、第八十二、第八十三、第八十四、第八十五、第八十六、第八十七、第八十八、第八十九、第九十、第九十一、第九十二、第九十三、第九十四、第九十五、第九十六、第九十七、第九十八、第九十九、第一百

月、涼月、薄雲）訓練項目

(1) 一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百

(2) 攻撃部隊基本戦法綜合演練

(3) 神雷部隊行動能力向上法ノ演練

五、實施要項

教練指導官ノ計畫指導ニ依ル

六、本教練期間中本職將旗ヲ鹿屋ニ移揚ス

七、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百

八、第一挺身航空部隊指揮官ハ第一機動基地航空部隊ノ南九州方面展開

輸送ニ協力スベシ。

親接
急

受信二二三六
譯了二三四〇
電〇九八〇七
艦政概
部政〇



艦本總務部・横工廠・潜水艦部。佐、吳各工廠。

機密第二〇一六〇〇番電

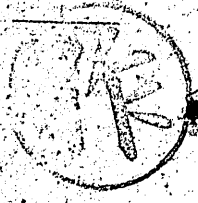
二分ノ一

發 第六艦隊參謀長

一回天ヲ使用スル今後ノ潜水艦作戰ハ航行艦襲撃ヲ實施スルノ要大トナルベキニ鑑ミ回天搭載ノ全潜水艦ニ對シ中央側方共ニ交通筒是非準備ノコトニ取計ヲ得度尙本件ハ吳工廠ニ於ケル模型實驗ノ結果可能ナリ。

（電信課註、本電ニ未着）

通一〇九七四 呂一▲（B）吳 永侯（飯用）



緊急

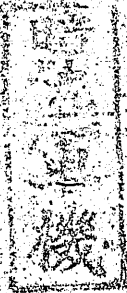
二二〇
二一〇
開始〇八一〇
了〇八三〇
電〇九八三六

艦政本部

● 總無線艦所用共通符號

● 軍令部一、二部・軍務局・聯合艦隊口

● 艦政本部總務部・橫工廠・潜水艦部・七潜水戰隊下・佐工廠・吳工廠



機密第二〇一六〇〇番電 二分ノ二

發 六日參謀長

ニ小型偵察機ノ將來性ニ鑑ミ本機搭載潜水艦ノ格納筒及射出機ハ此ノ際撤去同天三基又ハ二基搭載ノコトトスルヲ可ト認ム。

（電信課註 本電二分ノ一既配布）

通一〇〇一 呂一A（B）吳

一 二〇〇
受信二一〇〇〇
開始二二〇〇〇
了二三二四
電〇九八一〇
作 概〇

作戰緊急

南西方面艦隊

大海軍一部・聯合艦隊

機密第二〇一八一四番電

發 第一輸送戰隊司令官

南西方面部隊機密第二〇〇九四三番電返

當 隊兵力現狀(所在)ニ關シテハ當隊機密第一五一八二五番電報告

ノ通ナルトコロ現況左ノ如シ

一 輸送艦第一一四・一四三(高雄待機) 第一一五・一四四(基隆待機)

(第一〇八)香港空襲被害ニ依リ應急修理ニ二ヶ月以上ヲ要ス(第

九(修理)ノ爲吳回航中)

二 作戰指揮兵力第二八號驅潛艇(高雄待機) 第二十一號掃海艇(修理

通一〇九六八 呂一五八一八(四六〇五KG)高雄

ノ爲佐世保同航中)

三、今次作戦ニ於ケル被害艦艇(作戦指揮兵力ヲ含ム) 輸一四輸一五

輸一四〇第一〇三號哨戒艇第三十一號驅潜艇沈没輸一三一輸一四九

大破炎上